

2015 年度 関西学院大学自己点検・評価
 < C 票 > 第三者評価結果 【法学研究科】

教育研究目標 1

1. 6 年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係性 （※ 6 年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 2 名	左記を選択した理由： ・ プログラムごとに必要なカリキュラムの準備をすると記されているため。また、数値目標も設定されている。（評価者 C） ・ ここで掲げられた目標については具体的であると言えます。（評価者 B）
「具体的でない」 1 名	左記を選択した理由： ・ 具体的方策については進路説明会実施と入試制度改革しか記されておらず、また入試制度改革についても具体的なヴィジョンが示されていないため。（評価者 A）
その他気づいた点： ・ エキスパートコースの内容について詳細に記されている点。（評価者 A）	
6 年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された 6 年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	< 評価者からのコメント > ・ 目標としては妥当なものであると思われます。（評価者 A） ・ 課題及び現状へと至った原因が分からない（書かれていない）ことから、設定された目標の妥当性・適切性についてコメントのしようがありません。ただ、行動計画そのものについては学生増が目標とされていることから、それを基準にしてコメントします。（評価者 C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	< 評価者からのコメント > ・ 妥当であると思われます。（評価者 A） ・ 妥当です。（評価者 C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	< 評価者からのコメント > ・ 適切であると思われます。（評価者 A） ・ 適切です。（評価者 C）

教育研究目標 2

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 （※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 2名	左記を選択した理由： ・ 目標の性質上、このような記述になることは理解できます。（評価者B） ・ 後期課程への進学を前提としたコースであることが窺い知ることができる。（評価者C）
「具体的でない」 1名	左記を選択した理由： ・ 数値目標は具体的であるが、目標達成のための方策については進路説明会・個別説明にとどまり、その内容についての具体的な記載に乏しいため。（評価者A）
その他気づいた点：	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<評価者からのコメント> ・ 研究科における研究活動の進展という視点からは重要なものであると思われませんが、方策の具体性に欠けるように思われます。（評価者A） ・ 課題及び現状へと至った原因が前期課程の在籍者減にあると書かれていることから、院生数の4倍増という目標は意欲的でありかつ妥当と思われます。（評価者C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<評価者からのコメント> ・ 数値目標が挙げられており、妥当なものであると思われます。（評価者A） ・ 妥当と思われます。（評価者C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<評価者からのコメント> ・ 適切であると思われます。（評価者A） ・ 妥当と思われます。（評価者C）

教育研究目標 3

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 (※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか)	
「具体的である」 1名	左記を選択した理由： ・ 目標の性質上、このような記述になることは理解できます。(評価者B)
「具体的でない」 1名	左記を選択した理由： ・ どのような後期課程在籍学生（成績、研究内容、経済状況、進路設計、等々）獲得のためどのような志望者増計画を実施するのか、ということについて、より具体的なヴィジョンを示すことが望まれるため。(評価者A)
その他気づいた点： ・ 教育研究目標2との目標として違いが明確でない面があるように思われます。両者を一連の一体のものとして示すこともあり得るのではないのでしょうか。(評価者A)	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 (設定された6年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。)	<評価者からのコメント> ・ 研究科における研究活動の進展という視点からは重要なものであると思われませんが、方策の具体性に欠けるように思われます。(評価者A) ・ 課題及び現状へと至った原因が分からない(書かれていない)ことから、設定された目標の妥当性・適切性についてコメントのしようがありません。ただ、行動計画そのものについては学生増が目標とされていることから、それを基準にしてコメントします。(評価者C)
評価指標 (目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。)	<評価者からのコメント> ・ 数値目標が挙げられており、妥当なものであると思われます。(評価者A) ・ 妥当です。(評価者C)
目標達成スケジュール (目標達成に向けたスケジュール設定は適切か(長すぎないか、短すぎないか))	<評価者からのコメント> ・ 適切であると思われます。(評価者A) ・ 適切です。(評価者C)